

第3回男女共同参画セミナーを終えて

2012年9月15日に兵庫県立大学・姫路書写キャンパスで開催された日本植物学会第76回大会において、第3回男女共同参画セミナーを開催しました。今回は、過去2回のセミナーで実施したアンケート結果として、「男性の体験談を聞きたい」という要望が多く寄せられていたことを受け、「イクメン過去現在未来」をテーマとしたパネルディスカッションを企画しました。ランチョン形式を

<プログラム>

- ・会長挨拶 福田裕穂（東京大学）
- ・植物学会における男女共同参画の現状
川合真紀（埼玉大学）
- ・パネルディスカッション
～イクメン過去現在未来～
司会：永田典子（日本女子大学）
パネリスト：町田泰則（名古屋大学）
東山哲也（名古屋大学）
福田裕穂（東京大学）
川合真紀（埼玉大学）

とり、昼休みを利用した短時間の会ではありましたが、170名を超える方々にご参加いただき、会場には若い学生さんからベテランの教員まで幅広い年齢層が集まりました。

まず会に先立ち、福田会長からは、今後、社会で女性がどれだけ活躍できるようになるかが、学問分野、さらには日本の未来に重要であろうとのお話をいただきました。続いて男女共同参画委員会から、本学会は、学生会員に占める女性の割合が40%を超え、理系学協会の中でも女性率が非常に高い学会であるが、一般会員になると女性率は17%に減少しているという現状を報告しました。また、男女共同参画委員会として、大会時の女性の参加率調査を継続して行っており、3年前には座長に占める女性の割合が7.3%であったものを、プログラム編成の先生方に申し入れるなどの活動を通して本年度は19.2%にまで上昇させたことなどを報告しました。

続くパネルディスカッション「イクメン過去現在未来」では、永田典子委員の司会の元、パネリストとして、長年、ご夫婦で研究者として活躍されている町田泰則先生、さらに現在、子育て中でもある東山哲也先生のお二方を迎え、加えて福田会長、男女共同参画委員長の川合が加わり、自身の経験や若手のキャリア形成に対する考え等、幅広く意見交換が行われました。

町田先生からは、ご夫婦で研究者であり続けることの苦労談をお話いただきました。また、現在の子育て中の研究者夫婦の姿は、ご自身の経験から見ると隔世の感があるとお言葉をいただきました。

福田会長からは、現在、研究室に子育て中の女性研究者が複数おり、生き生きと子育てや研究を楽しんでいる様子を見て、心から応援しているというメッセージをいただきました。

東山先生には、子育て中の世代として一日の流れをご紹介いただきました。自分たちで全てを背負い込むのではなく、周りのサポートをうまく使って仕事と育児の両立を上手に図られていることがよくわかりました。

また、司会者からの話題として、夫婦で揃って研究職を得るのはなかなか難しく、別々の地域に職を得ることにより別居となる事例が多いことや、女性限定公募の実施に対する意見交換なども行われました。近年、女性・若手研究者の支援策が打ち出され、活躍されている方が学会内でも多くみられるようになってきました。それだからこそ、今後、配偶者や家族、家庭生活と仕事の関係といった「ライフワークバランス」の問題がさらに大きくなっていくのではないかと感じました。

最後に、本セミナーもようやく3回を迎えることができました。今回、強引なお願いに対し快くパネリストをお引き受けいただきました町田先生、東山先生に心から御礼申し上げます。また、これまで本委員会の活動を支えていただきました福田会長、男女共同参画委員の先生方に感謝申し上げます。

男女共同参画委員会委員長・川合真紀



会場の様子